物語1

指導計画案

指導上の重点目標	学習活動	指導上の留意点
【かぐや姫の生ひ立ち】 1 「竹取物語」の概略を理解する。 2 内容にふさわしい音読をする。 3 古語の意味を正しくつかみ、内容を理解する。 4 かぐや姫が人間と異なる点、現世とは異なる物語空間を味わう。 5 話の内容を整理し、登場人物の行動と心情を読み取る。	**導入** ❶「竹取物語」について知っていることを発表する。知技 ❷「竹取物語」の全体の構成・展開について理解する。	❶何人かの生徒に発表させ、黒板に整理していく。 ❷❶で整理した内容を使い、誕生・求婚・昇天の三部構成になっていることを理解させる。
	展開 ❶「かぐや姫の生ひ立ち」を音読する。思判表 ❷教師の範読を聞きながら、大意を押さえ、解釈が難しい部分を指摘する。知技 ❸古語の意味・用法、文法事項に注意しながら、現代語訳する。（「古文を読むために5」を参照する）知技 →**「言葉と表現」**1 ❹当時の風俗・習慣について理解を深める。思判表 ❺かぐや姫が普通の人間と異なっているところを指摘する。思判表 →**「学習のポイント」**1 ❻翁のかぐや姫に対する行動、かぐや姫の様子を現代語訳を参考にまとめる。思判表 →**「学習のポイント」**2	❶指名して、ゆっくり大きな声で音読させる。 ❷難解なところは少ないので、現代語と形は同じでも意味の異なる語（「うつくし」など）に注意させる。 ❸重要古語は辞書を使って意味を確認させる。 ❹「髪上げ」「裳着」などの風習にどのような意味があったか説明する。 ❺❻現代語訳をしながら、ポイントを箇条書きにさせていくとい。

【かぐや姫の嘆き】

1 「かぐや姫の生ひ立ち」からの経緯を理解し、物語の状況を把握する。
2 心情を表した会話文にふさわしい音読をする。
3 敬語や省略に注意して、内容を理解する。
4 登場人物の行動と心情を読み取る。

まとめと発展

❶「五人の貴公子の求婚」について概略を聞き、物語の全体像をつかむ。

❷本文中から過去や完了の意味を持つ助動詞を探し、本文のどの位置に表れるか、確認させる。知技 主態
→「言語活動」1

❶人名などにこだわり過ぎず、概略を説明する。

❷「かぐや姫の嘆き」を読解・鑑賞するうえでも必要なので、生徒の興味を引くよう要点を説明しておきたい。

❷「けり」「たり」「ぬ」「つ」の四つの助動詞ごとに、どのような文脈の中に現れるかを確認させ、助動詞の使い分けについて理解を深めさせる。

導入

❶「かぐや姫の生ひ立ち」の後、五人の貴公子と帝の求婚を退け、最後に昇天に至る場面であることを知る。知技

❶指名して、ゆっくり分かりやすく音読させる。

展開

❶「かぐや姫の嘆き」を音読する。思判表
→「言葉と表現」1

❷敬語や省略に注意しながら、現代語訳する。知技

❸かぐや姫の言葉を参考に、かぐや姫の悲しみの理由をまとめる。思判表
→「学習のポイント」1

❹翁の心情の変化を読み取る。思判表
→「学習のポイント」2

❺「月の都」と「この世界」との違いを考える。思判表

❷言葉を補う必要のある箇所についてはきちんと指摘し、敬語については基礎的文法事項を解説する。

❸月の都の人間で、帰らなければならないこと、それがうれしくないことを押さえさせる。

❹翁の行動を押さえ、心情を考えさせる。

❺時間のスケールの違いを押さえさせる。

まとめと発展

❶かぐや姫の人間性がどのように描かれているか、「かぐや姫の生ひ立ち」と比較して考える。知技 主態
→「言語活動」1

❶非情で神聖な月世界の人が思いやりあふれる人間に成長していることに気づかせる。

【単元の言語活動３　月が詠まれた和歌を鑑賞する】

1　月の異名を調べさせる。
2　「百人一首」で月が詠まれた和歌を鑑賞させる。
3　グループごとに担当した「持ち歌」について生徒自身が主体的に理解を深め、文章にまとめさせる。
4　「持ち歌」についてわかりやすく発表する。
5　発表や作品に対する感想を持たせ、各自で課題以外で月が詠まれた和歌を鑑賞させる。

導入

1 月の呼び名を調べる。知技
❶「陰暦月齢表」（三五八ページ）を見て、日付ごとに月の呼び名がどのように変わるか、確認する。
❷「立待月」「居待月」「臥待月」の呼び名の意味を調べる。
❸「有明の月」とは、どのような月を言うのか、調べる。

1 古語辞典、資料集などで、月の呼び名と月の出の時間帯の関係を確認させる。
有明の月と呼ばれる月の日時だけではなく、文学的にどのようなイメージと結びついているかを確認させる。

展開

2 「百人一首」の和歌ア～ウについて、①～③の手順で鑑賞する。思判表
❶ 六つのグループを作る。グループA・Bのメンバーはア、グループC・Dのメンバーはイ、グループE・Fのメンバーはウを「持ち歌」とする。グループ内で「持ち歌」について、「現代語訳」「月がどのようなものとして詠まれているか」を話し合い、文章でまとめる。
❷ グループを解体し、「持ち歌」ア・イ・ウのメンバーを必ず含む新しいグループを作る。新しいグループ内で、①でまとめた各自の「持ち歌」についての文章を発表する。
❸ ア～ウを比べた感想を新しいグループごとに発表する。

2 「持ち歌」の内容やポイントが伝わりやすいように文章を工夫する。
他の人の「持ち歌」についての発表を聞き、感想をメモする。

まとめと発展

3 「百人一首」の中から、ア～ウ以外で月が詠まれた和歌を一首選び、「月がどのようなものとして詠まれているか」について考え、鑑賞する。主態

3 1 2 の学習を踏まえて、各自が「百人一首」の中から月が詠まれた歌を一首選んで鑑賞し、和歌の中で月がどのようなものとして詠まれているかについての理解を深める。